

# 月刊ウィーン

## GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙

おかげさまで創刊20周年

創刊1989年 No.249

# 2010年3月号



ヘルベルト・プロベルガー「ショーウィンドーの前で」1928年 板に油彩 個人蔵 キュンストラーハウスにおけるウィーン博物館の特別展『都市をめぐる闘争』にて展示



# 杉本純の原子力の話



# 欧州原子力事情・ウクライナ



Fotos (c) Energoatom

ウクライナ国土の大半は緩やかな丘陵地帯であり、特に中央部は肥沃な黒土地帯で穀倉地帯として知られている。一九九一年に旧ソ連から独立したウクライナは政治的独立のみならず、エネルギー分野での自立を目指している。同国は、二〇〇八年末現在、フメルニツキ、ロブノ、南ウクライナ、ザポロジェの四つのサイトで計十五基の原子炉を運転している。全て旧ソ連の加圧水型軽水炉である。総発電量に占める原子力発電の割合は約四七％と、フランス、リトアニア、スロバキア、ベルギーに次いで世界第五位である。他は主に石炭と天然ガスである。最近三年間の原子力発電所の平均設備利用率は七七％と我が国の六三％と比べても高い。

ウクライナといえば、首都キエフから約百二十キロにあるチェルノブイリ発電所四号機で一九八六年に発生した事故を思い浮かべる人も多いだろう。事故後の九〇年、ウクライナ最高会議は原子力発電所建設の凍結を決議したが、九三年に撤回し、事故前に着手していた原子力発電所の建設を継続した。これは、国内のエネルギー不足を解消するためには原子力が不可欠との政府の認識を示すものである。ところが実際は、ウクライナにウラン資源はあるが、その加工や燃料の製造と供給、さらに使用済燃料の貯蔵と再処理も全てロシアが行なっているのである。そのため、ロシアからの経済的な圧力を受けやすく、同国のエネルギー確保体制は脆弱である。しかし、〇六年一月のロシアによる天然ガス停止問題をめぐる対立を契機に、同国政府は〇六年三月、エネルギー源をガスから石炭、原子力へ移行させるため、三〇年までに二十二基の原子力発電所を建設するウクライナエネルギー戦略を発表している。

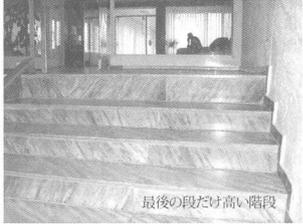
事故後、先進七ヶ国を初めとする西側諸国は、事故を起こした黒鉛減速チャンネル型炉の安全性を疑問視し、同型の原子炉を有する同発電所の閉鎖をウクライナに要求した。九四年には、ウイーンに本部がある国際原子力機関の調査結果に基づき、同発電所の安全性が基準以下で早急な改善が必要とウクライナへ警告した。その後、ウクライナ政府と先進七ヶ国並びに欧州連合は、ウクライナへのエネルギー開発支援の融資と補助金を条件に同発電所を閉鎖することで合意し、二〇〇〇年末、最後まで運転していた三号機を停止させた。事故を起こした四号機を覆う石棺は、事故直後に応急的に建設されたが、本体に複数の亀裂が生じているため、内部に大量の水分が侵入し、周辺地域を汚染する可能性が懸念されている。そこで、石棺の長期的な安全性を確保するため、九七年に新シェルター計画が作成され、二九ヶ国が中心となって欧州復興開発銀行に石棺基金が設立、我が国からの五千五百万ドルを含む計十二億ドルを拠出している。

筆者は、チェルノブイリ事故時には、科学技術庁(当時)に出向しており、原子力安全委員会に設けられたソ連原子力発電所事故調査特別委員会の事務局を担当として、事故状況の把握、事故原因の検討、我が国への教訓の導出等、委員会運営で苦勞した経験があり、この事故にはとりわけ思い入れが深い。事故発生から二〇年後の〇六年、ウイーン赴任中に同発電所を初訪問する機会があった。発電所到着後、展示建物から四号機を覆う巨大な石棺を窓ガラス越しに見て、これが世界を震撼せしめたあのチェルノブイリかと思し感じ入った。発電所では新シェルター計画以外にも、新燃料貯蔵施設の建設、廃止措置などを進めている。発電所から約六十キロに造成されたスラブチツチ市に約三千人の職員と家族が居住している。現場の職員は真摯に仕事に当たっており、ロシアへのエネルギーの過度な依存を避けるため、新原子力発電所の建設を熱く語る専門家もいたし、昼食をとったカフエテリアでは比較的若い職員が多く、全体に予想より活気を感した。

余談であるが、同発電所管理棟の会議室に向かう階段の最後でつまずき、カバンを投げ出す程派手に転倒してしまっ

た。建設を熱く語る専門家もいたし、昼食をとったカフエテリアでは比較的若い職員が多く、全体に予想より活気を感した。

余談であるが、同発電所管理棟の会議室に向かう階段の最後でつまずき、カバンを投げ出す程派手に転倒してしまっ



最後の段だけ高い階段



チェルノブイリ4号機石棺の前で



チェルノブイリ30kmゾーン入口の検問

**日本語定期観光『みゆう』**  
 毎日催行・現地発ツアー&チケット手配  
 ウィーン半日市内観光／ウィーンの森半日観光／音楽の散歩道／  
 鉄道で行くザルツブルクとザルツカンマーゲート／  
 ホイリゲとコンサートで楽しむウィーンナイト (全ツアー要予約)  
**MIKI TRAVEL VIENNA 月～金 (9:00-17:30)**  
**TEL : (01)310 2188-18**  
 myu@mikivie.at www.myushop.net

**空港送迎や観光は快適なメルセデスベンツで**  
 Tel. 0676-700 3728 (英語&独語)  
 日本語でのご予約はメールで承ります  
 お申し込みは早めにご連絡ください gekkan@utanet.at  
 料金例：空港～ウィーン市内：  
 ベンツ (3名様まで+通常スーツケース2個まで)  
 片道€32～€35  
 別車種 (4名様まで+通常スーツケース4個まで)  
 €35 / 5名様の場合は€52  
 観光や商用にお気軽にご用命下さい。ザルツブルク、グラハ、ブダペストなど各地にも参ります。